

短歌

こ
じま
つね
ひこ
小島経彦



萩市
(1891～1984)

小島経彦は萩市に生まれ、十八歳の時から三十三年間小学校教員として勤続する。作歌を始めたのは十六歳の頃で、明治三十九年『文学世界』の短歌欄に投稿し、選者窪田空穂との師弟関係が生まれた。窪田空穂選の毎日新聞歌壇では二度の毎日歌壇賞を受ける。窪田空穂との関係は子息の窪田章一郎へと繋がり、窪田章一郎主宰の歌誌『まひる野』の重鎮として活躍。自身も萩に「黎明短歌会」を発足し、多くの後継者を育てた。

(松浦ヤス子)

【主な著作】

歌集『晩潮』(小島経彦氏古希記念会、昭和36年)

歌集『寒雲雀』(昭和51年)

歌集『萩』(昭和54年)